

脚の血管がボコボコし、浮き出る。はけななる人も。それ以上に、脚女性にとって美容面からスカートが「だるい、むくむ」を訴え、QOL（生活の質）が低下する。そんな下肢静脈瘤の悩む人々に、体によさしいレーザー治療を日帰り手術で行っている施設があり、そして、名医がいる。



「名医の診察室」  
（医学ジャーナリスト・松井宏志）

### 11年から保険適用に…

の施設（銀座七丁目）は5月に開院以来、11年5月までのわずか2年（東京都中央区）レーザー治療の間に、下肢静脈腫の日帰りのレーザー治療を統括する大木隆生顧問は約4000例を超えた。

手術件数は1日平均6例、多い日は10例、少ない日も3例です。

驚異的な手術数を淡々と話すのは同クリニックを統括する大木隆生顧問（51）慈恵医大卒。東京慈恵会医科大学附属病院長血管外科の教授であり、米国アルバータアイシシユタイン大学血管外科

## ボコボコ脚

# レーザーでスッキリ

「10年ぶりにスカートはけた」



受けた患者さんは、ほぼ全員に喜んでいただいています。患者の声は、「脚がこんなに軽いとは思わなかった」「外出できなかったのが、できるようになった」「10年ぶりにスカートがはけるようになった」「もっと早く受ければよかった」等々。下肢静脈瘤の治療は今でも「ストリッピング手術」が多い。脚の付け根とヒザの2か所を切開し、悪くなった血管の中に手術用ワイヤを通してワイヤごと弁の壊れた静脈を引き抜く手術。

### 30〜60分の日帰り手術

大木統括顧問のほか、大木統括顧問は短期間で驚異的な数の下肢静脈瘤の日帰りのレーザー治療を行ってきた。

大木統括顧問のほか、大木統括顧問は短期間で驚異的な数の下肢静脈瘤の日帰りのレーザー治療を行ってきた。



東京 中央区の銀座七丁目クリニックス静脈腫センター  
大木統括顧問は短期間で驚異的な数の下肢静脈瘤の日帰りのレーザー治療を行ってきた。

科の教授でもある。大動脈手術の世界のスーパードクターとして知られている。  
「大木病院の役割は大動脈瘤や閉塞性動脈硬化症などの難しい病気の治療と研究です。QOLを低下させ、患者さんが多いといっても生命に関わらない下肢静脈瘤の手術は大木ではほとんど行っていないです。ただ、欧米で普及していたレーザー治療が11年から日本でやっと保険適用となり、この良い治療を含めたいと思ったのですが、それを提供できる施設が限られていました」

「長年我慢してきました」  
一方、レーザー手術は局所麻酔下に弁不全を起こしている伏在静脈に細いレーザーファイバーを挿入。静脈内をレーザーで焼灼し、閉塞させることで逆流を止め、引き抜くのと同じ効果を得る。同時に、レーザー治療では取り切れないふくらみは、皮膚に2〜3mmの切り込みを入れて静脈を切除する。トータル30分から60分程度で終了する。何となく入院せずに治療できるメリットが患者には大きい。「瘤切除の際、傷口をより小さくする」「銀座静脈腫センター」を独自に開発しました。

クリニックスではスタッフ全員で徹底して患者の体によさしい治療に取り組んでいる。  
「レーザー治療は健康保険が適用されるタイプ（自己負担約4万円）と、さらに痛みが少ない新型レーザーの両方を行っています。より痛みの少ないレーザーは自由診療です」

さらに、日本初となる最新のレーザーも導入され、臨床試験が行われる予定である。

逆流がなくなると「静脈の血管壁の弱体化」など原因は多い。  
下肢静脈瘤の種類は「網目状・クモの巣状静脈瘤」「分枝静脈瘤」「小伏在静脈瘤」「大伏在静脈瘤」などがある。見た目の問題が強く出るのは「小伏在・大伏在静脈瘤」である。あなたは「下肢静脈瘤」を患っている可能性がある。

下肢静脈瘤は脚の静脈に逆流が起き、そのため下肢静脈に瘤状の拡張、変形ができる。逆流を防ぐために静脈の血管には弁機能があるが、その弁機能が低下したり、壊れたりすると逆流を引き起こす。

### 下肢静脈瘤

「脚に瘤ができた」  
「脚の血管がボコボコしている」  
「脚がむくむ」  
「脚がこむら返りを起こす」  
「脚が疲れやすい」  
「脚が重い」  
「脚がだるい」  
「脚が痛い」  
「脚がかゆい」  
…などの症状が1つまたは複数みられる場合、あなたは「下肢静脈瘤」を患っている可能性がある。  
下肢静脈瘤は脚の静脈に逆流が起き、そのため下肢静脈に瘤状の拡張、変形ができる。逆流を防ぐために静脈の血管には弁機能があるが、その弁機能が低下したり、壊れたりすると逆流を引き起こす。